

参加報告 : Living Labs Global Award (LLGA)2013



福岡地域戦略推進協議会（以下、FDC）は、福岡の世界へのブランディング活動のひとつとして、社会実験国際賞プログラム「Living Labs Global Award 2013（以下、LLGA2013）」に参加しました。

●参加目的

- ・福岡を世界へブランディングする。（サンフランシスコ、バルセロナなどの強力な国際ブランド力を持つ地域と横並びでの広報機会）
- ・地域経済戦略の柱である MICE 関連ソリューションのアイデアを広く世界から募集する。
- ・世界の企業・団体とネットワーキングを行う。

●LLGA（Living Labs Global Award）2013 とは

バルセロナとコペンハーゲンに本部をおき世界 50 都市、1,000 企業とネットワークを持つ組織「Citymart.com」が 2009 年より毎年主催している、都市開発ソリューションに関する国際アイデア・コンペ。各ホスト地域が掲げたテーマに対して、世界中からアイデアを募集する。LLGA の最大の特徴は、ホスト地域が優勝者に社会実験の機会を提供することである。各地域は応募者の中から優勝者を選定した上で、その優勝者のアイデアを地域の現場にて時限的に展開する社会実験に取り組むことが義務付けられている。

■主催：Citymart.com ■共催：オラクル（Oracle）、気候組織（The Climate Group）、国連グローバルコンパクト・シティプログラム（The UN Global Compact Cities Programme）、Agile Cities、サンフランシスコ市



ORACLE

THE CLIMATE GROUP



AGILE CITIES



●LLGA2013 参加地域

Aalborg（デンマーク）、Barcelona（スペイン）、Boston（米国）、Christchurch（ニュージーランド）、Eindhoven（オランダ）、福岡（日本）、L'Hospitalet（スペイン）、Lagos（ナイジェリア）、Lavasa（インド）、London（英国）、Maringa（ブラジル）、Mexico City（メキシコ）、Oulu（フィンランド）、Paris（フランス）、Rio de Janeiro（ブラジル）、Rosario（アルゼンチン）、San Francisco（米国）、Sant Cugat（スペイン）、Sheffield（英国）、Tacoma（米国）、Terrassa（スペイン）、York（英国） **計 22 地域**



世界各地域の募集テーマは、モビリティ、経済成長、社会的包括、健康・幸福、都市経営、照明、エネルギー、文化、未来の政府像、持続的ライフスタイルなど多岐にわたる。

●FUKUOKA の募集テーマ

『スマートな国際会議場開催地 (Smart International Conference Destination)』

国際コンベンションや展示場を開催できる福岡の規模や魅力を強化するために、国際会議参加者と主催者の双方が便利に使える、関連情報閲覧・管理ツールを募集。

●スケジュール

2012 年 11 月～2013 年 1 月 31 日：アイデア募集

2013 年 1 月 31 日：アイデア募集締切

2013 年 2 月 18 日～3 月 1 日：第 1 次審査（応募の中から 5 候補を選出）

2013 年 4 月 10 日：第 1 次審査通過者による個別質問回答票およびプレゼン動画の提出締切

2013 年 4 月 15 日～26 日：第 2 次審査（第 1 次審査通過者の中から FUKUOKA 賞を選出）

2013 年 5 月 14 日～16 日：都市サミット（最優秀賞表彰式及びマッチング会議）

2013 年 5 月下旬～10 月：社会実験準備（主催地域は費用負担義務を負わない）

2013 年 10 月 9 日～11 日：最優秀賞受賞者の来日講演＆ネットワーキング

2013 年 11 月：社会実験結果報告

●審査基準

1. RELEVANCE TO CHALLENGE（募集テーマとの関連性）
2. IMPACT ON ECONOMY（経済的効果）
3. IMPACT ON CULTURE（文化的効果）
4. IMPACT ON ECOLOGY（環境的効果）※
5. IMPACT ON POLITICS（政治的効果）
6. INNOVATION（革新性）
7. INTERNATIONAL MARKETS（国際市場性）
8. ABILITY TO EXECUTE（実現性）

※「4. IMPACT ON ECOLOGY（環境的効果）」のみ、気候組織（The Climate Group：国際的な気候問題に取り組む非営利組織）が審査。

●審査員（福岡）

1. マーク・コ克蘭氏（Business Strategies Group マネージングディレクター／UFI（国際展示会協会）アジア太平洋支部事務局長）
2. ヌア・アマド・ハミッド氏（ICCA（国際会議協会）アジア太平洋支部事務局長）
3. 星野幸代氏（国連ハビタット福岡本部 本部長補佐官）
4. ジョン・メーダー氏（レンドリース・ジャパン株式会社シニア・プロジェクト・マネージャー）
5. 前田真氏（九州大学 知的財産本部 副本部長／准教授）
6. 定村俊満氏（株式会社ジーエー・タップ 代表取締役社長）
7. 坂本剛氏（株式会社産学連携機構九州 代表取締役）
8. 高島宗一郎氏（福岡市 市長）
9. 山下真輝氏（株式会社ジェイティービー旅行事業本部観光戦略室 マネージャー）

●審査員について

LLGA 事務局が定める基準に従い、各地域にて 8～10 名の審査員を定める。今回 FDC では、地域内 6 名、地域外 3 名の計 9 名の方に審査員として協力いただいた。

●第 1 次審査：2013 年 2 月 18 日～3 月 1 日

FUKUOKA の募集テーマへの応募件数は 30 件。うち、28 件のソリューションを第一次審査対象として審査した。福岡地域審査員と気候組織（The Climate Group）が、専用 Web サイト（citymart.com）に掲載された資料をもとに 8 つの審査基準項目毎に 5 段階評価を行った。28 件全てを評価し、高得点上位 6 件が第一次審査を通過した。6 件のうち第 2 次審査へ進出することに同意した 4 件が FUKUOKA 賞（最優秀賞）の候補となった。応募ソリューション開発者の主な所在地域は、MICE 事業が盛んなアメリカをはじめ、カナダ、英国、フランス、ポーランド、オランダ、ポルトガル、ベルギーなど。

●LLGA2013 への全体応募件数

LLGA2013 主催組織（Citymart.com）の調査チームが、3 カ月以上を要して見つけた 2,535 件の各地域募集テーマ関連ソリューションのうち 456 件のソリューションは、国際的専門家らによって構成される総勢 159 名の審査員によって、第一次審査対象として審査された。各地域（福岡を含む 22 地域）の第一次審査通過ソリューション一覧はこちら
（<http://llga.org/solutions.php>）。

●福岡地域第 2 次審査対象（4 候補）※順不同



■「Contactless tags to bridge real and virtual worlds」

応募者：Connectthings

概要：NFC タグ／QR コードを利用したデジタル情報配信ツール

■「Mobile, interactive high quality indoor maps - MobinetMaps!」

応募者：MobinetMaps

概要：地図に特化したコンベンション開催支援ツール

■「Guidebook」

応募者：Guidebook Inc.

概要：人と場所を繋ぐ SaaS（Software as a Service）型アプリのイベント開催支援ツール

■「Eventbase by Xomo - Over 5 Million Event App Downloads」

応募者：Xomo Digital Inc.

概要：ロンドンオリンピック（2012）での採用実績のあるコンベンション開催支援ツール

●第2次審査 (LLGA2013 FUKUOKA 賞) : 2013 年 4 月 18 日

審査員での協議により最終選考を行った。(国外在住のマーク・コ克蘭氏、ヌア・アマド・ハミッド氏は事前メールでの意見提出、東京在住のジョン・メーダー氏は電話参加)

<http://www.fukuoka-dc.jpn.com/?p=2934>

- 審査会場 : FDC 会議室 (福岡市役所北別館 6 階)
- FUKUOKA 賞 (最優秀賞) : 「Guidebook」

guidebook



Guidebook Inc. (米国カリフォルニア州パロアルト市)

「Guidebook」は、モバイル IT 技術を活用したイベント、学校、美術館、コミュニティセンター、商業施設等の情報をスマートに提供するアプリ。「Guidebook」アプリは、「ガイド」と呼ばれる施設やイベントのコンテンツをダウンロードし使用するための受け皿であり、「ガイド」を増やすことでユーザーは入手できる情報を組み合わせることができる。<http://guidebook.com/>

●LLGA2013 FUKUOKA 賞「Guidebook」の選考ポイント

- ① 多言語対応である。
- ② Fukuoka で想定できるコンベンションの主流規模に適している。
- ③ 来街者がアフターコンベンションを楽しむ為に必要な情報を提供できるプラットフォームがあり街へのインパクトがある。

また、提案企業はアジア進出に積極的であり、既に韓国・ソウルにオフィスを持ち日本国内オフィス開設も視野に入れていること、そして第二次審査対象素材であるプレゼン動画が Fukuoka 向けに作成されていたことも、優勝への高い意欲として選考の決め手となった。

●LLGA2013 都市サミット : 2013 年 5 月 14 日～16 日

福岡を含む、世界 22 地域が参加する「LLGA2013」の各地域優秀賞表彰式を含むイベント「LLGA 都市サミット 2013 (LLGA | Cities Summit)」が米国サンフランシスコ市で開催された。

- 日程 : 2013 年 5 月 14 日～16 日
- 開催地 : 米国サンフランシスコ市
- メイン会場 : フォートメイソン・カンファレンスセンター
- 出席者数 : 214 名 (世界 22 以上の地域より)
- 出席者カテゴリー : 地域パートナー代表者 (市長・商工会議所役員・市職員 等)、ソリューション開発者、起業家、投資家、インキュベーター、メディア関係者 等
- 参加 : 後藤太一 (FDC 事務局長)、サース恵美子 (FDC ディレクター)、山田美里 (LLGA2013 対応窓口 / (公財)福岡アジア都市研究所所属)、前田真 (FDC 環境部会副部会長)、坂本剛 (株式会社産学連携機構九州 代表取締役)
- 内容 :

【1 日目】2013 年 5 月 14 日 (火)

- ◆ 午前 : 地域パートナー・トレーニング・プログラム (Cities Training Programme)
- 地域パートナー限定のプログラム。都市のソリューション採用の現状や Citymart.com の活

動内容、過去の実証実験の事例（バルセロナ、ラゴス）、市民ジャーニー・マッピング（オラクル）を各スピーカーから学んだ。

◆午後：地域パートナー代表者会議（Cities lunch）

22 地域の代表者各 1 名が一堂に集まり、意見交換を行う（福岡からは後藤太一 FDC 事務局長が出席）。



◆午後：地域パートナーとの対話 & 表彰式（City Dialogues & Award Ceremony）

4 グループに分けられた地域パートナーの代表者らが登壇し、モデレータの質問に各人が回答した後、最優秀ソリューションの発表を行う。福岡は、モデレータ：

Chris Vein（世界銀行 CIO）の進行により、

Christchurch（ニュージーランド）、Oulu（フィンランド）、Paris（フランス）、San Francisco（米国）の代表者らとともに福岡地域戦略推進協議会事務局長が登壇した。各最優秀賞発表後に記念写真を撮影。Maringa（ブラジル）からは、新市長と旧市長が登壇した。

【2日目】2013 年 5 月 15 日（水）

◆午前：講演（Welcome & Presentations）

Citymart.com の CEO は世界の地域パートナーからのアンケートを発表。バルセロナ副市長（Sònia Recasens Alsina 氏）はバルセロナが取り組む、Free Zone 等のスタートアップ誘致戦略を発表し誘致を呼びかけた。オラクル社の公共セクター担当ディレクターはスマートシティ・プラットフォームについて発表。

◆午前：エレベーター・ピッチ（Elevator Pitches）

LLGA2013 第一次審査通過ソリューション開発者らによる 1 分間のプレゼンテーションが次々で行われた。登壇企業数は約 30 社。健康や環境分野のプレゼンが多くみられた。

◆午後：パラレル・セッション（Parallel Panel Discussions）

4 テーマから興味のあるものを事前に選び、それぞれの個室へ入室。約 30～40 人の全参加者が短い自己紹介を行った後、スピーカーからプレゼンを聞き、意見交換を行った。例）B カテゴリー「Experience of the City」：NFC タグ・QR コードを利用した情報案内システムや、道路下に埋め込まれた装置の上を通過することでエネルギーを作るシステム、AR（拡張現実）ソリューションなどの発表が行われた。

◆午後：ビジョニング・ワークショップ（Visioning Workshops）

メイン会場にて、グループ毎にテーブルに分かれ、テーマに沿った共同試行作業を 90 分程行う。グループで意見を交換しあった要点を、1 分間で発表した。

◆午後：パネル・ディスカッション（Panel Discussion）

スピーカー 4 名 + モデレータ 1 名による討論会。テーマは「The City as a Lab」（研究室としての都市）。社会実験を経て、サービスリリースしている起業家たちが、実装に至るまでのポイントや課題を言及。会場参加者との質疑応答では、具体的なノウハウ交換も行われた。

【3日目】2013 年 5 月 16 日（木）

◆午前：イマージョン・プログラム／ワークショップ（Immersion Program and Study

Tours)

4 種類のプログラムから 1 つに事前申し込みし当日は各プログラムの指定場所へ集合した。1 つは最低人数に満たず中止された。参加した「San Francisco's unique approach to innovation workshop」グループは、下記 4 箇所を訪問し、サンフランシスコ独自のイノベーションへの取組み&施設を見学した。治安の悪さで有名なテンダーロイン（Tenderloin）地区再開発計画の影響がうかがえた。

1. The San Francisco Chronicle Building



@901 Mission Street, SF

改装されたサンフランシスコ・クロニクル新聞社のビルに、複数のイノベーション関連施設が入居する。入居施設の一つ、Intersection for the Arts（アートでコミュニティのイノベーションを図る施設）にて、以下関連団体からのプレゼンを聞いた。

- 5M Project (<http://www.5mproject.com/>) イノベーションの起こるコミュニティを作る
- 「Urban Prototyping」(<http://urbanprototyping.org/>) Gray Area Foundation のプロジェクト。アート&テクノロジー&社会（公共スペース）を繋ぐ
- Pier 70 (<http://pier70sf.org/>) ウォーターフロント開発 (<http://www.sfport.com/modules/showdocument.aspx?documentid=5678>)
- the HUB Bay Area (<http://bayarea.the-hub.net/>) 世界中にネットワークを持つ コ・ワーキング・スペース the HUB の Bay Area 店。

2. The Warfield (<http://thewarfieldtheatre.com/>)



@982 Market Street, SF

1922 年に開場され、2008 年に改築された元劇場のコンサートホール。収容人数 2,250 人。音楽ライブ以外にもカンファレンスやセミナーとして利用される。二階客席にて以下の方々から話を聞いた。

- Tumml (<http://tumml.org/>) : 都市の課題解決に特化したスタートアップ・アクセラレーターの CEO・Clara Brenner 氏。（例：Zipcar、サンフランシスコ公共レンタル自転車事業）
<http://www.bizjournals.com/sanjose/news/2013/04/01/new-incubator-aimed-at-helping-urban.html?page=all>
- 起業家 Barney Pell 氏 (<http://www.linkedin.com/in/barneypell>) : QuickPay (<https://qpme.com/>) CEO で、Powerset (<http://www.bing.com/>) の開発者。「Future is going on mobile!」世の中はモバイルになる。将来的には、駐車場ごとの料金徴収設備は必要なくなり、車を止めて映画館へ行き携帯電話を提示すると映画館が駐車料金を払うこともありうる。
- Google.org (<http://www.google.org/>)

3. WeWork Golden Gate (<https://www.wework.com/sf/goldengate>)



@25 Taylor Street, SF

1922 年に開場された劇場ビルを改装した、ニューヨーク発のコ・ワーキング・スペース WeWork の Golden Gate 店。

- 改装が終了し、会員が既に入居している上層階を見学した。1～10 人用の個室は窓際に設置されており、大きな窓が開放感を演出する。共有のリビングルームとキッチン、

休憩の他、ワークショップの開催や、開発中アプリの試作評価の場として利用され、スタートアップの成長をサポートしている。

- 見学ツアーの案内をしてくれたシリコンバレーのスタートアップ事情に詳しい Peter Hirshberg 氏（Re:imagine Group の共同創設者兼 Grey Area Foundation for the Arts の共同創設者）は、「コ・ワーキング・スペースはたくさんあるが、WeWork のすごいところはそのスピード感。ニューヨークで始めた事業がたった 2 年でサンフランシスコやロサンゼルスに数箇所のスペースを作った。こんなに早いのは珍しい。」と評価。

4. TechShop (<http://www.techshop.ws/>)



@926 Howard St, SF

2006 年に誕生した会員制工房の San Francisco 店。3D プリンターやレーザープリンターの他、金属カッターなど個人での所有が難しい大型製造設備が備わっている。会費を払えば誰でも利用でき、自由に作りたいものを作ることができる。利用者はインストラクターから設備の使い方を教えてもら

ったり、レッスンを受けたりできる。

●実証実験プロジェクト開始会議

開催日：2013 年 5 月 15 日（水）

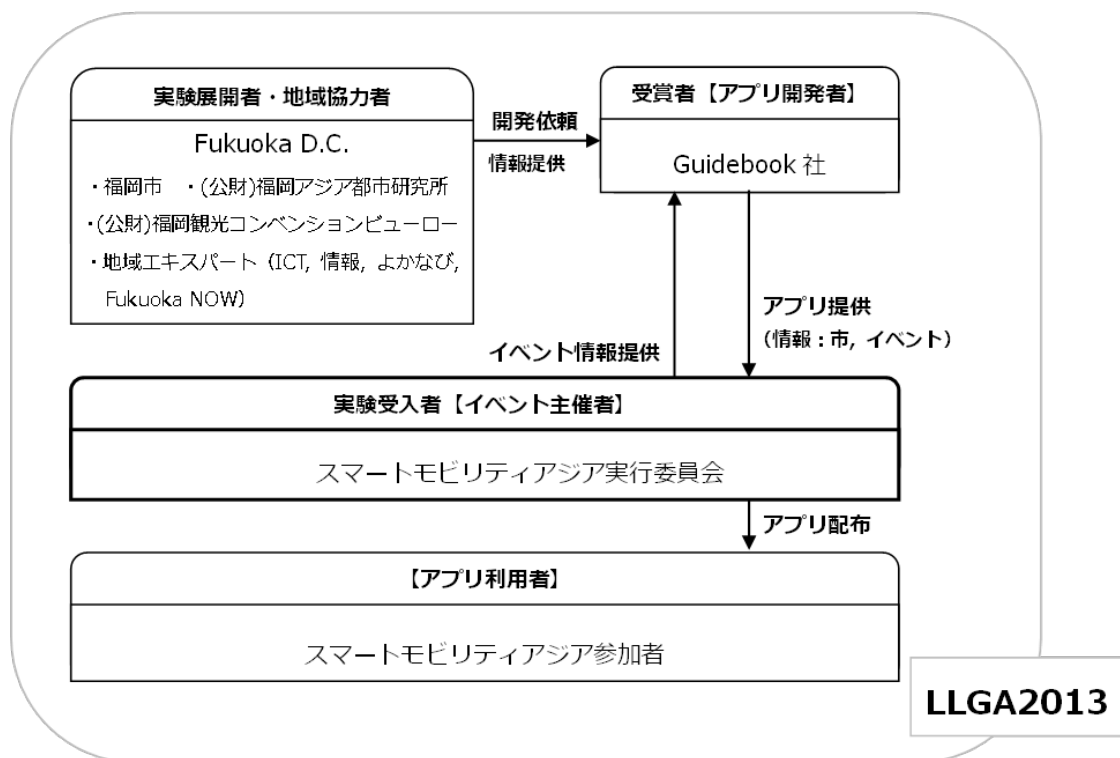
開催場所： Guidebook Inc. 会議室（米国カリフォルニア州パロアルト市）

LLGA2013 FUKUOKA 賞受賞企業担当チームとの会議を行った。FUKUOKA 向け Guidebook アプリのデモを見せてもらう。表彰式翌日の会議であったが、そのデモの完成度の高さと開発期間の短さに、感銘を受ける。実証実験プロジェクトの体制や実施自体について、双方の合意を確認しプロジェクト始動。

●LLGA2013 FUKUOKA 実証実験プロジェクト：2013 年 5 月 15 日～10 月 20 日

LLGA プロジェクトの一環である実証実験では、福岡の募集テーマに応募された 28 件のソリューションの中から選定された最優秀ソリューション「Guidebook」を、福岡地域コミュニティの協力のもと、時限的に実証実験し、その有効性や問題を検証するため、『福岡 MICE』アプリを開発し、2013 年 9 月 21 日より無料配布を行った。

●実証実験プロジェクト体制



●実証実験の目的

- ① LLGA2013 参加条件・必須事業
- ② 社会実験の場を提供する福岡、「スタートアップ支援をする福岡」をアピール
- ③ スマートな国際会議場開催地

●実験の場（イベント）

 スマートモビリティアジア 2013@福岡（以下、SMA2013）
<http://www.smart-mobility-asia.jp/>
 日時：2013年10月10日（木）・11日（金）・12日（土）
 会場：（10日・11日）ももち浜 SRP ホール、
 （12日）九州大学 次世代燃料電池産学連携研究センター
 主催：スマートモビリティアジア実行委員会
 共催：FDC 環境部会

●実証実験により検証すること

- ① ツールが参加者にとって便利である（イベント・観光）
- ② 主催者にとって有効な情報配布手段である
- ③ スマートなツールが MICE に必要である

**スマホアプリ（無料）で
福岡市観光情報と
イベント情報をGET!!**

会場アクセスやスケジュールなどのイベント概要はもちろん、観光情報など便利な情報が満載。イベントをスマートに堪能でき、福岡での観光・飲食タイムを充実させるアプリ『福岡 MICE』が、今なら無料で利用できます。

イベント情報「スマートモビリティアジア2013」も掲載！
 開催日：2013年10月10日（木）・11日（金）・12日（土）
 会場：10日・11日 ももち浜 SRP ホール 12日 九州大学 次世代燃料電池産学連携研究センター

guidebook

●『福岡 MICE』アプリ

イベントをスマートに堪能するためのスマホアプリ『福岡 MICE』でできることは以下。



【イベントガイド】

- ・カンファレンス・プログラム／出展者／会場案内／体験イベント情報閲覧
- ・自分専用スケジュール設定によるアラーム機能
- ・チェックリストの設定

【観光情報ガイド】

- ・観光・飲食／地図／福岡市最新情報／福岡写真ギャラリー閲覧

アプリのダウンロード方法：<http://www.fukuoka-dc.jpn.com/?p=5936>

●ガイドアプリの入手方法（無料）



1) 以下のいずれかの方法で、『福岡 MICE』アプリをダウンロード後、インストールする。

- ・App Store または Android Market から「福岡 MICE」アプリをダウンロードする。
- ・端末のブラウザから guidebook.com/app/fukuoka にアクセスする。
- ・左記 QR コードを読み取り、ダウンロードする。

2) 『福岡 MICE』アプリを起動する。

3) 「ガイドをダウンロード」をタップする。

4) ガイド一覧の中から「スマートモビリティアジア 2013@福岡」を選択して『スマートモビリティアジア 2013@福岡』ガイドをダウンロードする。

●福岡市観光情報ガイドの入手方法（無料）

2) ～ 3) 同上。

4) ガイド一覧から、『福岡市』ガイド（日本語）または『Fukuoka City』（英語）を選択し、ダウンロードする。

※アプリ対応端末：iPhone、iPad、iPod Touch、Android

※アプリ非対応端末（Windows Phone 7、Blackberry）からは、モバイルサイト

<http://m.guidebook.com/guide/12444/>（SMA2013 イベントガイド）、

<http://m.guidebook.com/guide/10345/>（観光情報ガイド）にて情報を利用可能。



● **実証実験ソリューション開発企業 Guidebook 社の来日**

社会実験に合わせて、Guidebook 社の最高経営責任者ジェフ・ルイス氏がシリコンバレーから来福。実験受入イベントである「スマートモビリティアジア@福岡」で講演を行った他、地域協力組織への表敬訪問やイベント交流会参加により、将来的なビジネス創出の機会やネットワーク作りを行った。

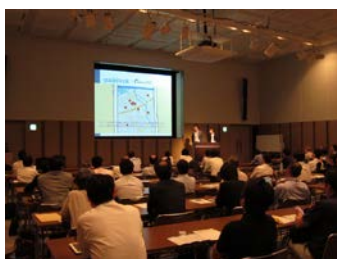


【講演】

日時： 2013 年 10 月 11 日（金） 10:40～11:25

会場： ももち浜 SRP ホール

イベント名：スマートモビリティアジア 2013



講演者：

Guidebook 社 最高経営責任者 ジェフ・ルイス氏

Guidebook 社 日本・韓国支店ディレクター 趙・アラ氏

講演タイトル：LLGA 福岡最優秀賞受賞「Guidebook」

～米国シリコンバレーからの新しくて面白いテクノロジー～

国際アイデア・コンペにて、国際コンベンション等の主催者・来訪者により良い経験を提供する革新的なモバイルソリューションとして福岡最優秀賞を受賞した Guidebook 社。会社のビジネス、福岡での実証実験プラン、シリコンバレーからの新しいテクノロジーについて語る。

(<http://www.smart-mobility-asia.jp/conference/>)



【表敬訪問先】

■福岡市 経済観光文化局

■公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー



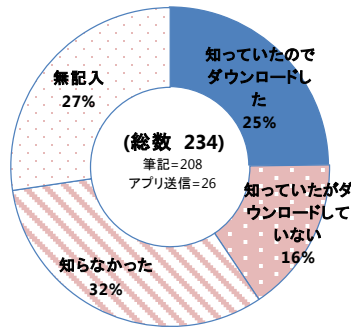
【取材受入メディア】

■西日本新聞

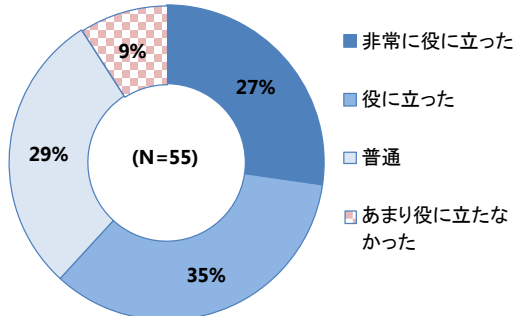
■フォーラム福岡（パブリック・アクセス誌）

●「福岡 MICE」アプリに関するアンケート調査結果集計：筆記及びアプリ送信により回収

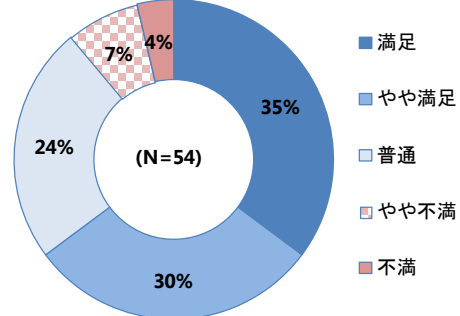
「スマートモビリティアジア2013」ガイドのアプリを知っていましたか？



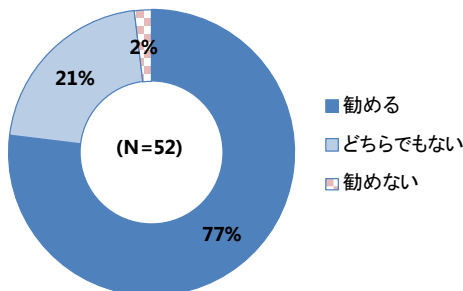
アプリはイベントをより楽しむのに役立ちましたか？



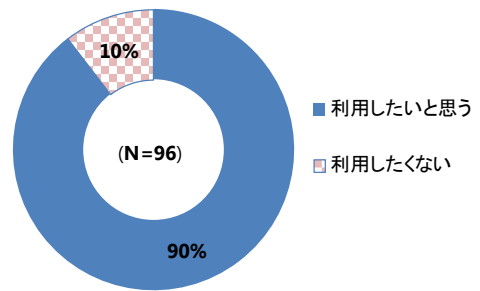
アプリを総合的にどのように評価しますか？



今後、福岡でイベントが開催される際、このようなタイプのガイドを他の人に勧めますか？



アプリを「知っていたがダウンロードしていない」「知らなかった」方は、アプリを利用してみたいと思いますか？



- すごく使い易いと思う。
- 「ワンストップ」で様々な情報を得ることができるところが良い。
- あると便利。
- 参加するにあたり必要な情報がすべて入手できた。つくり込みが良く、ソフトの反応も素早い。
- スピーカ情報、講演概要情報が希薄。アクセス情報で会場内についての情報が見当たらなかった。
- 資料（プレゼンスライド、講演資料のアーカイブ、発表資料等）があるとよい。
- 地図情報（会場内の売店の位置情報、会場周辺の詳細な地図、GoogleマップやGPSと連携した地図情報等）があるとよい。
- 会場無料WiFiのパスワードを通知（表示）してくれると便利。
- 参加者の反応なども、リアルタイムで流してほしい。
- イベント数が増えるといいですね。
- スケジュール、スピーカ情報、アクセスを操作性よく持ち歩けるため。
- 画像の貼り込み、スマホへの最適化不足。
- 紙のパンフレットで充分でした。
- 情報が少なく、アプリを使う用途が少ない。
- Webで充分。そもそもオフィシャルサイトからガイドのページへリンクしてない（リンクが分かりにくい）のはどうか？と思う。
- カンファレンスの規模によりけり。
- イベントの場合には、情報のリアルタイム性が必要ではないでしょうか。
- 複数のセッションが同時進行するような大きなカンファレンスにこのアプリの真価が発揮されると思います。SMA2013規模だと紙一枚あれば十分。
- 既にある情報を構成して提供しているだけなので独自の機能やリンク性を高めてほしいカンファレンスごとにメモ機能が付随すると便利に思う。コンベンションではメモをとることも多いので、後でカンファレンスごとに見返せるといい。
- イベント情報はリスト化されていて易いですが、各リストに写真やマーク等を小さくても表示されていると、視覚的、直感的にイベントが説明されて目を引きやすいと思います。

●実験参加者（SMA2013 カンファレンス聴講者）人数

1 日目：297 名

2 日目：375 名

3 日目：237 名

合計：909 名

外国語によるカンファレンス数：15 件中 1 件

●『スマートモビリティアジア 2013@福岡』ガイドダウンロード数：237**●LLGA2013 を通じて得たこと**

- ① 募集テーマに対する多様な提案があったことで、仕様がなくとも問題となっているテーマだけで仕様を含む提案を集めることができる、という新しい発注の仕方を知った。
- ② スタートアップ企業に対して、プロジェクト単位の取組における新しい介入の仕方を提示できた。
- ③ 組織間の協力に対する体制づくりを経験できた。

●LLGA2013 参加まとめ

グローバル MICE シティを目指して Fukuoka が世界に向けて募集した「スマートな国際会議場開催地」であるために必要なソリューション。MICE 誘致ではいかに主催者に喜んでいただくか、そして参加者に喜んでいただけるかが大切であり、Face to face の場づくりが MICE の大事なポイントですが、そのための様々な仕組み提供のひとつとして、LLGA を捉えている。

実証実験では、実験の場となったイベントに日本語以外を主たる言語とする参加者が少なく、イベント情報の多言語化の必要性がなかった為、多言語対応であるアプリを十分に活用できたとは言いが、福岡市観光情報に関しては、今回のイベントに限らず今後 MICE 関連で来福する海外の方による利用の可能性が考えられる。また、その必要性を福岡市や福岡観光コンベンションビューローへ提示できたことは実験の実施価値があったと言える。

今回開発した「福岡 MICE」アプリは、技術的には国内や域内の企業であっても開発可能なものであるかもしれないが、国を超えた協力関係の元、短期間で実利用に耐えうるツールを開発し、利用者からのフィードバック回収や見込み顧客の発掘を行えたことは、実証実験プロジェクトに参加協力した各組織にとって成功に値する。それは、MICE 戦略に必要なツールの提示だけでなく、実証実験の実施自体を肯定するものであり、起業（スタートアップ）の支援に取り組む福岡において社会実験の受入が増えることが望ましい。

また、LLGA の目標の一つである、世界規模での自治体事業受注経験の認証をさらに広げるべく、福岡の企業や開発者が LLGA のような社会実験国際賞プログラムに応募できる機会や環境をつくる必要がある。